

【只見町】

2021 年度 只見ユネスコエコパーク活動支援補助金事業

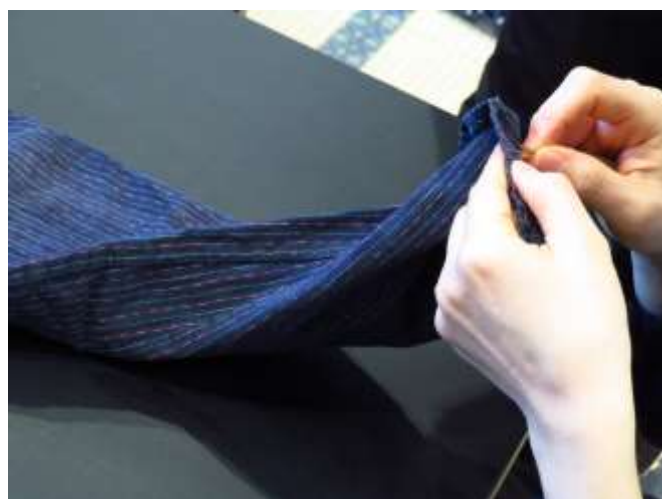
「只見の仕事着文化継承～第 2 回ユッコギワークショップ～」を開催！

2月15日、只見振興センターにて合同会社メーデルリーフ主催で「只見の仕事着文化継承～第2回ユッコギワークショップ～」が開催されました。

このワークショップは只見ユネスコエコパーク活動支援補助金の採択を受けた事業であり、只見町に古くから受け継がれてきた仕事着であるユッコギ（下半身に着用する仕事着）を、次の世代に伝えていくことを目的とした取組です。

これまで集まったユッコギは、細めのホソユッコギと、ゆったりしたダフユッコギというタイプの2種類でした。当日はまず裁断の仕方を学ぶため既存のユッコギを解体したのですが、丁寧に手縫いされたユッコギの解体は一苦労でした。

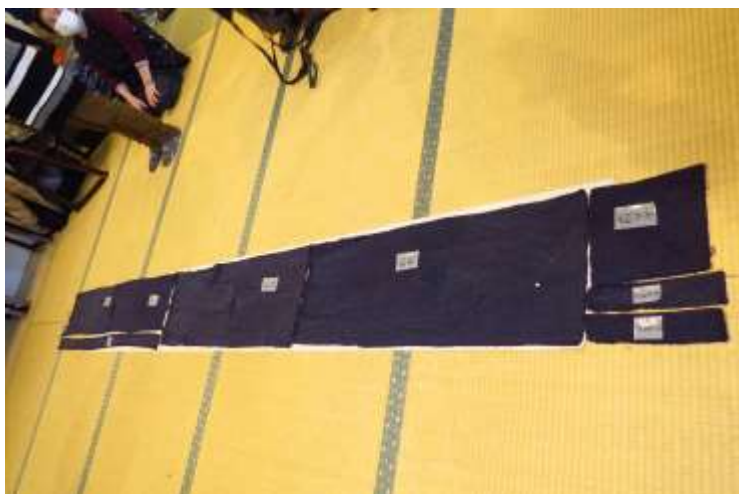
さらに小さな端切れ布であちこち補強されており、昔の人々の物を丁寧に使う暮らしを垣間見ることができました。



▲木綿地は糸が滑らないのでほどきににくく、大勢で解体しました

解体が終わったユッコギを並べてみると見事1枚の反物にもどりました。

反物は全て直線で裁断されており、四角い布を立体的に縫い上げる知恵には脱帽です。



▲1枚の反物に戻ったユッコギ（全て直線で裁断されている）



▲四角形を上手くあわせて立体的な形に縫い上げる

その後は、解体した裁断をもとに手ぬぐいを使って小さなユッコギを作ることに挑戦しました。マチが多くて苦戦したりもしましたが、参加者達は裁断から縫製まで一通りを学ぶことができたようです。



▲手ぬぐいを使ってユッコギ作りを学ぶ参加者

第2回ワークショップでは、ユッコギの仕組みを学びましたが、無駄のない裁断の仕方は見事としか言いようがありません。大量消費大量生産の現代において、只見の仕事着に見られるような限られた資源を有効に使う知恵は、持続可能な社会の実現のために引き継ぐべきものなのだと思います。

今後もユッコギを使い伝えていくための取組として、次回までに参加者それぞれがユッコギを現代風にリメイクしたり、新たに作ったりして日常に着ることができるようユッコギをお披露目する予定です。



▲様々なリメイクの方法を話し合う参加者



▲完成したミニユッコギと記念撮影

※第1回ワークショップの様子はこちらから↓

[202127activity_report_TadamiBRActivity.pdf \(tadami-br.jp\)](https://tadami-br.jp/202127activity_report_TadamiBRActivity.pdf)